令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　新潟県　）

１．基本情報

研究指定校名	柏崎市立南中学校

○これまでの研究指定等の状況

－

○学級数

５学級（うち特別支援学級：２学級）

○児童生徒数

84 人（令和８年２月１日現在）

○URL

https://www.kenet.ed.jp/minami/

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	Well Being 誰一人取り残さない　～差別を見抜き、差別をなくそうとする生徒の育成～

○調査研究のテーマを設定した目的

柏崎市立南中学校は全校 80 名程度の小規模校で、各学年通常の学級が１クラスずつあり、学級担任は皆採用２校目で経験が浅いのが現状である。そのため、人権教育や同和教育に関する知識や経験が豊富とは言えず、指導に関しても自信を持ってあたることが難しい状況である。

学校は大変落ち着いた雰囲気で、どの生徒も教育活動に一生懸命取り組むことができる。「生徒アンケート」の人権に関わる項目、「思いやりの気持ちで友だちと接した」「他の人が嫌がることを「言わない」、「しない」など、いじめを許さない行動をとった。」では、それぞれ９０％以上の生徒が肯定的な回答をし、人権を尊重して行動することの大切さを理解している。学校経営スローガン「自立・共生　みんな幸せになろう　～Well　Being　誰一人取り残さない～」を実現するために、周りの人の幸せを考えて行動する生徒が多い。

一方で、いじめの問題や差別的な行為に対して他人事のような受け止めをしてしまう生徒も見受けられ、主体的に差別を見抜き、差別をなくそうとする態度は十分に育っているとは言えない。そこで、生徒が人権問題を自分事としてとらえ、主体的に行動する力を高めたいと考え調査研究のテーマを設定した。

〇調査研究の概要

①「人権教育、同和教育に関する教職員意識調査（令和２年３月新潟県教育委員会）」では、人権教育、同和教育の授業について「自信がなく、間違ったことを教えないかと不安だ」と、全体の 44.3%が回答し、前回調査から 11 ポイント増加しているという現状がある。このことから、教師自身が正しい認識を身に付けたり、人権感覚を磨かなければならない。自信をもって生徒の前に立てるよう、人権教育、同和教育に関する職員研修の充実を図る。

②新潟県同和教育研究協議会作成の副読本「生きるⅣ（中学生用）」を活用した部落問題学習を通じて、部落差別の歴史と解放運動を学ぶ。同和問題を十分に理解し、その不当性を考えたり、差別をなくそうとする意志を述べたりすることができるようにする。

③生徒にとって身近な人権問題（いじめ、インターネットによる人権侵害など）を各教科との関連の中で学ぶ。日常生活でいじめや差別を見抜き、差別をなくそうとする意欲や態度を養う。また、柏崎市民としての当事者意識をもって「北朝鮮当局による拉致問題」について学ぶ。北朝鮮から帰国した方の講演を聴いたり、国や県作成の資料を活用して拉致問題への理解を深めたりして、被害者や被害者家族の心の痛みや叫びを共感的に受け止める気持ちをもたせる。また、その思いを外部へ発信していく。

〇指定理由

〇本調査研究では、生徒が主体的に差別を見抜き、差別をなくそうとする態度を育成しようと、学習指導を含めた学校教育の多くの場面で人権教育の視点を取り入れている。このことは、「学校教育におけるすべての学習機会をとおして、人権尊重の精神に基づき、一人一人の個性や多様性を認め合い、自他の人権を守る行動力の育成を図る人権教育を推進する」と掲げた「新潟県人権教育基本方針」の理念と一致する。人権教育の在り方が、特定の授業や行事による単発の教育活動になりがちであるという本県の課題の解決に資する調査研究と言える。

〇人権教育、同和教育の授業について「自信がなく、間違ったことを教えないかと不安だ」という教職員が、全体の 44.3%にも上り、その多くが若手教職員という点も大きな課題となっている。このことから、教師自身が正しい認識を身に付けたり、人権感覚を磨き、自信をもって生徒の前に立てるよう、人権教育、同和教育に関する職員研修の充実を図ることは大変重要な事である。

〇また、新潟県民としての当事者意識をもって「北朝鮮当局による拉致問題」について学ぶこととしている。この問題を県内・県外にこの取組を広く発信することの意義は大きいと考える。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	〇
② 女性	
③ 高齢者	
④ 障害者	
⑤ 同和問題	◎
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	〇
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

学校教育全体を通して、「差別を見抜き、差別をなくそうとする生徒」を育成するために次の３つの取組を行う。

①人権教育、同和教育に関する職員研修の充実
　～自信をもって生徒の前に立つために～
②副読本「生きるⅣ」を活用した部落問題学習の推進
　～部落差別解消を推進するために～
③身近な人権問題から、幸せに生きることを考える授業づくり
　～自分も周りの人も幸せになるために～

〇実施方法

①人権教育、同和教育に関する職員研修の充実
～自信をもって生徒の前に立つために～
・正しい認識を身に付ける
・差別の現実に深く学ぶ
・差別を解消しようとする意欲をもつ

ア　差別の現実に深く学ぶ現地研修への参加
・上越市白山会館や柏崎市での現地学習会に参加した。
・部落解放同盟新潟県連合会の被差別当事者を講師に招き、生徒・教職員を対象とした「人権講演会」を校内で実施した。

イ　正しい認識を身に付け、人権感覚を磨く各種研修会への参加
・新潟県同和教育研究協議会主催の研究集会に参加した。
・部落解放新潟県連合会主催の研究集会に参加した。
・上越市立東本町小学校主催の同和教育研修会に参加した。

ウ　全校集会を起点に、教室で深める人権学習
・全校集会での校長講話を起点にし、各学級でさらに人権について深く考え議論する授業を行った。
例）テーマ「人権を守ることの大切さ」
STEP１　全校集会での校長講話
<u>優しい言葉遣いを意識することで素敵な人生を送る一歩になる</u>
STEP２　各学級での道徳授業
<u>「人権」について、より深く考え、議論する授業</u>



市　内　現　地　学　習　会



人権を考える全校集会

②副読本「生きるⅣ※」を活用した部落問題学習の推進（※新潟県同和教育研究協議会作成）
～部落差別解消を推進するために～

ア　同和教育副読本「生きるⅣ（中学生用）」を活用した部落問題学習
・他教科・領域等と関連付けて、多面的・多角的に学ぶことができるように、人権教育、同和教育の年間指導計画を見直した。
・同和教育副読本「生きるⅣ」の題材を通じて、社会科と関連させながら部落差別の歴史的背景や部落差別問題の現状を理解できるようにした。
・生徒に部落問題が現代的な課題であることを理解させるために、「部落差別解消推進法」の趣旨を生かした授業づくりを行った。
・生徒の学びや成長を支えるために、学年部の教職員でティーム・ティーチングを行うなど、連携・協働体制のもと授業づくりを行った。

イ　被差別当事者から学ぶ「人権講演会」
・自校の生徒の実態に沿った部落問題学習を構想するために、研究校等の先行事

例を活用した。単元の流れの中に「被差別当事者の講話」を取り入れることで、今も部落差別が存在する現実を理解できるようにした。

ウ　同和問題をテーマとした「授業公開・研究協議会」

・これまでの学習や「人権講演会」での学びを生かして、部落差別解消のために自分にできることを考え、自分の言葉表現できるようにした。



被差別当事者から学ぶ人権講演会



授業公開・研究協議会

③身近な人権問題から、幸せに生きることを考える授業づくり

～自分も周りの人も幸せになるために～

・幸せに生きること（Well-Being）と人権の関係性を考えさせるために、生徒にとって身近で切実な人権問題を他教科・領域等と関連づけながら取り上げた。

ア　いじめ（全校）

・いじめ見逃しゼロ強調月間（６月・10 月）に小・中学校が連携して「いじめ見逃しゼロスクール集会」に取り組んだ。

・２回目（10 月）は、いじめに関するアンケート結果をもとに、いじめ防止のための具体的な行動について考えられるよう、内容を工夫して取り組んだ。

イ　障がい者（３年）

・３年生の総合的な学習の時間に、視覚障がい者を講師にお招きしてお話を聴いた。盲導犬との生活の様子など、福祉の大切さを学んだ。

ウ　性的指向、性自認（３年）

・社会科や保健体育と関連して、性の多様性について学んだ。

エ　インターネットによる人権侵害（全校）

・「GIGA ワークブック」を活用して「情報モラル教育」を実施した。自身のメディアの使い方を振り返り、SNS での誹謗中傷リスクなど、ネットトラブルへの対応などを具体的に学習した。

オ　幸せに生きること（Well-Being）

・「歌う道徳講師」として活躍するシンガーソングライターの大野靖之さんをお招きして、幸せに生きることを考える全校道徳を行なった。「家族」「命」「愛」「夢をもつことの大切さ」などをテーマに、歌を通して自身の生き方を考えた。





南中学校区オアシス集会　弁護士から学ぶ「いじめ見逃しゼロスクール集会」



講師を招いての全校道徳





南中学校区オアシス集会 アンケートを生かした「いじめ見逃しゼロスクール集会」



情報モラル教育



視覚障がい者から学ぶ授業

○検証・評価・改善・普及

＜検証・評価＞

①「人権教育、同和教育に関する教職員意識調査（令和２年３月新潟県教育委員会）」を参考に自校でも教職員への意識調査を実施する。その後の変容を見取る。

新採用２校目までの教職員（３人）の意識の変容　（単位：人）

○設問　・選択肢	時期	
○人権教育、同和教育を推進する上で、あなたが困っていることは何ですか。（複数回答可）	６月	２月
・取り組もうと思うが、時間的なゆとりがない	３	３
・指導に自信がなく、間違ったことを教えないかと不安だ	３	１
・研修機会が少ない		
・適切な教材がない	１	１
・困ったときに相談できる人が身近にいない		
・児童生徒の意欲や関心が低い		
・学校全体で積極的に取り組む雰囲気が感じられない		
・保護者の理解を得るのが難しい		
・いっしょに取り組む仲間がいない	１	
・特に困っていない		

・同和教育副読本を活用しながら、実践に取り組むことによって、間違えることへの不安は減少していることが伺える。しかし、正しい知識を得ることの重要性を考え

た時、十分な教材研究できるだけのゆとりがないことは、依然として課題である。また、「生きるⅣ」だけに頼った指導に陥らないようにするためには、自ら適切な教材を求めたり開発したりする必要がある。

②生徒の成長や変容を授業中の発言やワークシートの記述から継続的に見取る

人権教育に関わる「人権教育、同和教育の学習」「各教科・総合的な学習の時間」「生徒会活動」等における生徒の変化を学習シート、発言、振り返りシートから見取る。

◆同和問題学習（３年生：結婚差別）における生徒のワークシートの記述内容の分類

時間	資料名または活動名	人権課題や部落差別に関する知識の理解	受容、共感	様々な視点から差別を見つめ直している	人権を守ろうという行動の判断と意識の醸成	心の弱さへの気づき	行動意思	生徒数
①	峠	９	22	７	９	２	２	22
②	峠	４	20	７	７	２	４	24
③	ハートで挑戦！	４	21	11	21	13	９	21
④	人権講演会	18	23	16	23	13	21	23

・同和問題学習においては、時間を重ねるごとに、人権を守ろうとする意識が高くなっていることが分かる。特に、行動意思は、徐々に高まり人権講演会での被差別当事者からの講話によって大きく増加している。また、様々な視点から部落差別を見つめ直していることも伺える。

◆質問紙調査（６月、　２月に実施）

	６月	２月
ア　知識的側面： 同和問題がどのような人権侵害であるかを知っている。	４５．８％	８７．５％
イ　価値的・態度的側面： 差別や人権侵害の解消のため行動したいと思う。	５０．０％	６６．７％
ウ　技能的側面： 現実にある理不尽な差別に気付くことができると思う。	５４．２％	８３．３％
ウ　技能的側面 同和問題解消のために、自分にできることがあると思う。	４５．８％	６６．７％

・社会科と関連を図りながら同和問題の学習に取り組んだため、知識的側面における数値は上昇が見られた。また、価値的・態度的側面や技能的側面においても、数値の上昇は見られたものの、人権課題を解決しようとする行動への意欲については課題が残る。

③生徒の成長や変容を下記の数値データを比較する。

ア　いじめの認知件数と内訳

	令和６年度	令和７年度
いじめ認知件数	２件	４件
内 訳	・悪口 ・からかい ・物かくし	・SNS でのからかい ・仲間外し ・集団無視

イ　生徒アンケート（人権教育に関する項目）の結果及び人権教育に関する質問紙調査の結果

◆いじめは絶対に許されないことだと思いますか？　（単位：人）

		そう思う	どちらかといえばそう思う	あまり思わない	思わない	合計
１年生	６月	２３	３	０	０	２６
	１１月	２７	１	０	０	２８
２年生	６月	２１	１	０	０	２２
	１１月	２４	０	０	１	２５
３年生	６月	１９	４	０	０	２３
	１１月	２３	１	１	０	２５
合計	６月	６３	８	０	０	７１
	１１月	７４	２	１	１	７８
%	６月	８８．７	１１．３	０	０	１００
	１１月	９５．０	２．６	１．２	１．２	１００

◆いじめを見かけたら、あなたはどうしますか？下記から１つ選んでください。

（単位：人）

		①すぐ止める助ける	②状況を見て考える	③身近な大人や先生に相談する	④他の人にまかせる	⑤何もしない（できない）	合計
１年生	６月	１	１１	１４	０	０	２６
	11 月	８	９	１１	０	０	２８
２年生	６月	４	７	１１	０	０	２２
	11 月	８	９	８	０	１	２５
３年生	６月	０	６	１６	０	０	２２
	11 月	７	５	１３	０	０	２５
合計	６月	５	２４	４１	０	０	７０
	11 月	２３	２３	３２	０	０	７８
割合 %	６月	７．１	３４．３	５８．６	０	０	１００
	11 月	２９．５	２９．５	４１．０	０	０	１００

◆学校評価アンケート　（単位：%）

質　問	前期	後期
・学校（学級）生活は、充実している。	９１	９１
・挨拶をするときは、進んで自分から挨拶をした。	８９	９０
・思いやりの気持ちで友だちと接した。	９４	９６
・他の人が嫌がることを「言わない」、「しない」など、いじめを許さない行動をとった。	９２	９２
・どんな理由があってもいじめはよくない。	９４	９７

＜知識的側面＞

いじめが人権侵害であり、許されるものではないということを十分に理解している。

しかし、具体的にどのような行動や行為がいじめにあたるかという理解や判断が十分でないため、実生活ではいじめが起きてしまう。

＜価値的・態度的側面＞

いじめを見かけても何もしないという生徒は１人もいないが、いじめ防止に関する授業や「いじめ見逃しゼロスクール集会」等の成果から、その場ですぐ止めたり助けたりしたいと考える生徒が増加した。

＜技能的側面＞

いじめ防止には、身近な大人や先生に相談するだけでなく、その場ですぐ止めたり助けたりすることが重要であることを理解している。

＜普及＞

①調査研究の成果と課題については、年度末に研究のまとめを作成し、市内小・中学校と共有する。次年度のＰＴＡ総会等において、本年度の取組の成果と課題を説明し、保護者や地域への普及・啓発を図る。

②県教育委員会は、人権教育、同和教育に関する各種研修で、本研究の取組内容と成果を周知する。

５．人権教育にかかる年間指導計画

人権教育、同和教育　全体計画

柏崎市立南中学校

(1)本年度の目指す生徒の姿(グランドデザインより)

★他者を尊重し、多様な人たちと協働しながら社会の変化を乗り越え、幸せな人生を創り上げる力
⇒「絆・学び・づくり」
★社会で生きるための生活の基本を身につけ、何事にも責任をもち、しなやかでたくましい力
⇒「学び・からだづくり」

(2)指導の基本方針

・社会に根強く存在している不合理な差別や偏見をなくすことをめざし、互いの人格を認め合い、敬愛し合う人間を育成し、人権が尊重される社会の実現を期する。
・生徒同士が個性を認め合う学級づくりを行う。また、成功体験や他者との関わりを通じて自分の良さや可能性に誰もが気付けるよう働きかける。
・人権教育、同和教育に関する職員研修を充実させ、教師の人権感覚を高めるとともに、校内における同和教育の推進体
制を整える。

(3)人権教育、同和教育の全体計画

≪ 教 育 目 標 ≫
自ら学び　共に高め合って　やりぬく生徒 自立・共生　みんな幸せになろう ～Well－Being　誰一人取り残さない～

柏崎市、学校の教育実践上の努力点・目指す子ども像	人権教育、同和教育の重点目標	生徒の実態
・学力向上を目指した授業づくりを推進し、どの子も夢と希望をもてる学校に！ ・学力を高め合い、思いやりと挑戦の心をもち、ふるさと柏崎の自然や文化をこよなく愛する子ども	・差別や偏見をなくそうとする意欲・態度・実践力の向上 ・一人一人の個性と多様性を認めあい、差別やいじめを許さない集団づくり ・「自分事」として差別や偏見を見抜くための正しい知識の定着 ・教職員の人権感覚の問い直しと学び直し	・思いやりの気持ちをもって周囲と関わることができる生徒が多い。 ・人間関係が固定化している ・一部の生徒で、心ない発言をすることがある。

各教科	道徳教育	特別活動	その他の教育活動
・各教科の特質に応じて学習内容を見直し、同和問題に対する正しい認識と判断力を育てるよう努める。 ・一人ひとりを大切にする指導を心がけ、基礎学力の向上を図るとともに、学び合う学級集団づくりに努める。	・全ての教育活動で「思いやりをもち、自己や他者、社会によってよりよい判断が出来る力の育成」を視点に「考え、議論する道徳」を推進する。 ・人権尊重の精神や差別を許さない態度を育てるよう努める。 【重点項目】 B(8) 友情、信頼 B(9) 相互理解、寛容 C(15) よりよい学校生活、集団生活の充実 C(11) 公正、公平、社会正義 D(19) 命の尊さ	・「いじめ」をしない、許さない、命を大切にする意識の醸成 ・多様性を理解し、相互理解を大切に学級集団づくりに力を注ぐとともに、自己のよさや可能性を認識させられるように努める。また、合意形成を図る話し合いの機会や方法を工夫する。 ・民主的な話し合いのルールを身に付けさせ、協力し合って活動する集団づくりに努める。 ・奉仕・福祉活動の体験を通して人優しい心を育む。	・研究会報告や実地研修などを積極的に行い、職員の人権教育、同和教育に対する見聞を広める。 ・地域や家庭と連携を図り、人権教育、同和教育に対する理解と協力を深める。

(4)人権教育、同和教育の年間指導計画

月	各 教 科	道 徳	特別活動他
4	2年社:江戸時代の身分制度 3年社:アジアの民族運動 社会運動の高まり 全国水平社の設立 3年国:『握手』		生活・学習ルールの定着 学級目標・組織づくり
5	1年社:世界の宗教と文化 3年社:第2次世界大戦 日本国憲法の成立	1年:『「いじめ」にあたるのはどれだろう』	体育祭
6	1年社:古代文明 2年社:渋染一揆 3年英:Sign Languages, Not Just Gestures!	全校道徳「人権の大切さ」 2年:『私のせいじゃない』	【南星会】 オアシス集会① 学級目標発表会
7	1年英:あなたの知らない私 3年社:基本的人権(平等権)		
8	3年社:人権作文作成 (夏休み課題)		【職員】 県同教研究集会
9	2年社:四民平等	2年:『女子教育の夜明け一津田梅子』	
10	3年英:Malala's Voice for the Future	人権教育、同和教育授業実践① 1年:『人の値うち』 2年:『春遠からじ』 3年:『峠』、『伝えたいことがある』	音楽発表会 オアシス集会②
11	1年社:室町時代と文化 3年英:マーチン・ルーサー・キング(人種差別問題、人権)	全校道徳「人権(いじめ)」 1年:『わたしの「ふつう」と、あなたの「ふつう」』	
12	1年社:アパルトヘイト問題 3年社:社会保障制度 (部落差別解消推進法)	「生きるⅣ」を用いた授業実践② 1年:『文字をおぼえて夕焼けが美しい』 2年:『ハートで挑戦』 3年:『就職差別をなくすために』 ＊人権講演会実施	
1	1年社:アメリカの人種差別問題 3年国:『故郷』		
2	1年社:江戸時代の身分制度 2年国:『走れメロス』	3年:『卒業文集最後の二行』	学級目標振返り会 【2年】修学旅行
3	2年英:A Hope for Lasting Peace		卒業式

６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）

